

「三世代は楽しい」

和歌山県の御坊という街で、醤油・味噌の製造業を営んでおります
堀河屋野村 十七代当主の野村太兵衛と申します。

家業である堀河屋は、江戸元禄期から続く商家で、廻船問屋を営んでおりました。紀州は、徳川御三家、紀州藩があり、江戸に荷物や人を運ぶ必要がありました。今のよう
に、鉄道や飛行機があったわけではありませんから、水路が重要な意味を持ち、廻船業が盛んだったというわけです。

堀河屋は、紀州藩の荷物をお預かりし、江戸に運ぶ。そして、江戸で必要なものを調達し、紀州に持ち帰る。そんな廻船問屋でした。そんな流れを汲み、今はその頃の伝統的製法に基づく醤油・味噌作りを継承しております。

現在69歳。3人の息子がおります。長男の圭佑が、8年前に商社マンをやめ、家業に入りました。今は、堀河屋に関わるほとんどを彼がし、私はたまに口を出す程度であります。

しかし、私のこれまでは荒々しい廻船のようでした。父新一が、私が高校一年生の時に他界し、母豊子が堀河屋の家業を女手一つでつなぎました。私には妹が一人おりますが、当然男が家業を継承するのが当たり前時代。しかし、母は、私を大学にまで行かせました。「家業の火が消えないように」との強い思いがあった一方で、都会の空気に触れる大切さを感じていたのかもしれない。

そんな私が入家業に入り、約30年後、長男が家業に。これまでの経験を主張する私と、国際経験や今時の考えを持った長男。想いは同じでも、やり方や伝え方が全く違う。衝突の連続にお互いが疲弊していく毎日でした。ふと父新一のことが頭に。彼は代々の名跡「太兵衛」を継げずして、短命でなくなった。その彼が、この状況をどう感じるのか。

そんな中、長男に娘が誕生します。これが私のとっても長男にとっても大きな転機となりました。私は「おじいちゃん」になり、長男は「父親」となりました。お互いの役割が出来たことで、家業においてもお互いを尊重できるようになってきたのです。

十七代と続いてきた家に育ちながら、続くことの意味、喜びをこの年になってようやく感じています。今は二人になった孫の成長を見ていると、私、長男、孫の3世代が同じ空気を共有できることの喜びを心から感じます。おそらく、苦悩の日々を見ていた父新一が授けてくれたのでしょう。

堀河屋のモノ作り、歴史に、多くの方々が応援して下さいます。これまで以上にご期待に添えるようとの思いは、私も長男も同じです。孫の笑顔を見ながら、醤油・味噌屋の人生を全うしたいと意気込む今日この頃。三世代っていいですね！



Do you know that ?

【岡上菊栄】

一八六七年高知城下で生まれた。のちに社会事業家として日本の慈善事業のはしりとして献身した女性である。

父は山内藩の御典医岡上樹庵。母は坂本龍馬の姉の乙女である。故あって長女菊栄を産した二ヶ月後に樹庵から離縁を言い渡される。一つの理由は弟の龍馬が土佐藩を脱藩したからであると言う。

そこには複雑な理由があったらしいと言うのが通説となっている。父樹庵は菊栄が五才の時に他界。肉親の縁が薄かった菊栄は十四才で高知英和女学校に入学。そこでアニ・ダウトが経営するキリスト教に影響される。卒業後、教員の検定試験に合格、教師二十余年の後社団法人高知慈善協会に迎えられる。しかし周囲からは貧困な子供達を集めると言う誤解を受ける。菊栄の五人の子供も引き連れ、夫と離婚してまで社会事業に没頭する菊栄に世界は冷たかった。

菊栄の身の上起きた実感はそのまま孤児達の救済に向かう。「高知愛育園」として実に三五六人の子供達を世に送り出して一九四七年八十才の高齢で他界する。

土佐の豪商坂本家の孫としての名を捨て世の為に働いた菊栄の精神は若くして逝った甥坂本龍馬のいさぎよさにも似ている。

土佐山田町にそびえる巨大な記念碑はそれを物語っている。十一月十五日山梨県甲府市にある龍馬会をたずねた事は十九号で書いたが、あらためて岡上汎告氏に会った時、慈善事業家の岡上女史に何か関連があると直感したのは偶然とは言え「龍馬会」「土佐出身」「岡上」と三つの符号が何故か私をかり立てた。矢つぎ早やに質問を発し失礼かと思ったが、やっぱりあの「岡上」すなわち龍馬の姉「乙女」さんに行きつき嬉しかった。岡上汎告氏はまぎれもなく坂本家の御一統であったのだ。歴史はたどるほどに古きを知り新しきを知る。まことにわくわくする喜びを感じる。

【岡上菊栄の母（乙女）の思い出】乙女は近視であつたらしい。料理や裁縫は得意ではなかつた。字や絵が上手であつた。手紙をよく書く人だつた。力もちで女だてらに米俵をかついだりするのを岡上家の人は世間体が悪いといやがつた。乙女は一説にコレラにかつて死亡したという。岡上家に伝わるいくつかのエピソードである。南国土佐のゆかりの人が海のない甲斐の山のふとこで果樹園を持つ岡上家四代目にお目にかかるとは思議なめぐり合わせであつた。

飯沼信子 (いいぬま・のぶこ)

略歴

著述家。静岡県沼津市生まれ。歴史の中に埋もれた、海外で活躍した日本人、その妻らを取り上げ、「野口英世の妻」「高峰譲吉とその妻」等の本を著す。2006年、その功により、日本政府より旭日章を受章。日本ペンクラブ会員、日本エッセイストクラブ会員。LA龍馬会副会長



Congratulations!!

- * 早田義史 Long Bay College 卒業
- * 河森天開 Long Bay College 卒業、Media Design University 入学
- * 若山優華 中央大学法科大学院卒業、最高裁判所第71期司法修習生
- * 高橋昂寿 関西学院大学・人間福祉学部社会起業学科学入学
- * 川島義尚 Media Design University 卒業、(株)日本カラープロセス入社
- * 雨森街子 Whangaparaoa College 入学
- * 森本琴音 Long Bay College 卒業
- * 立木弘賢 マイクロソフト認定教育イノベーター選出
- * 飯島拓也 結婚
- * 村松野乃 (旧姓：苗加)、結婚
- * 大久保健太 Massey University 入学
- * 宮島大地 東京農業工業大学入学
- * 鉄井莉子 Northcross 中等部入学
- * 川上優希菜 関西外国語大学・英語国際学部入学
- * 渡辺有希枝 椋山女子学園大学院・臨床心理コース入学



Dear Mom
Do not forget, you only have one chance to live!
Don't forget to do what you want to do!
Life is short!!! *Moto*



Moto Michikata Crossing beyond national borders

I have been working in the humanitarian sector for the past 4 years ago. In 2011 when I decided to change my career, that is when it all begun. As I had no experience in the charity sector whatsoever, I applied for volunteering jobs to get my foot on the door. I landed on a job at a small NGO who specialises in training humanitarian workers. I volunteered as an administrator based in London and a couple of months later, there was an opportunity to work with UNHCR in Uganda as an administrator so I applied. And my travels across Sub-Saharan Africa started from there: Uganda, Ethiopia, Chad, Central African Republic and Congo-Republic. From there, my interests in the humanitarian work grew and landed on a job working in parallel with the UK Department for International Development.

I work in humanitarian operations team alongside civil servants responding to various disasters from natural, political conflicts and unique case like Ebola . When I joined the team, I worked in deployments team project managing consultants travelling in and out from countries. I was fortunate to also manage projects such as UK International Search and Rescue team where I deployed 67 members and a handful of canine team during the Nepal earthquake in 2015. Currently I work in Procurement and Logistics team. We do the procurement and distribute the goods as and when. For example when the request comes in to distribute goods, we organise logistics from let's say UK to the airport of an affected country and once hitting the ground, we distribute to wherever needed.

The work we do is unpredictable and we are on a 24-hour, 365-days standby. When large responses occur, it is very demanding and hard work. However, the work we do is very rewarding that is why I remain to work in this sector.